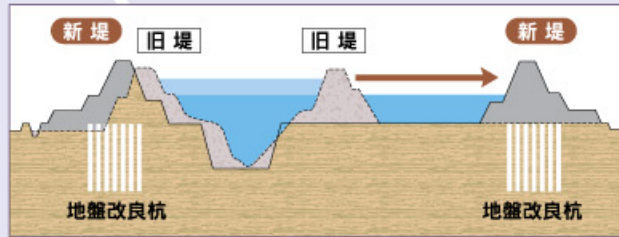


本明川の流域は、社会・経済・文化面において地域に密着するとともに、市民の貴重な水辺空間として広く親しまれています。

本明川は、河川の長さが短く、勾配も急であるため、上流で降った雨は一気に下流まで流れてくるという特性を持っています。また、東シナ海からの湿った空気が野母半島、島原半島を両翼に持つ諫早地方に集中し、多良山系にぶつかって雨雲が発達し、集中豪雨が発生しやすいという地形的、気象的要因と相まって、過去から豪雨災害が頻発しています。昭和32年の大水害を契機に翌年には直轄河川に編入され、現在一級河川として、快適で安心して暮らせる未来を目指して河川の整備を行っています。

快適で安心して暮らせる



本明川下流及び半造川の改修

本明川下流及び半造川では、諫早大水害（概ね100年に一度起こる規模）相当の洪水を安全に流す川幅や堤防の大きさが不足しています。このため、平成5年から堤防の引堤や掘削などの河川改修を進めています。



昭和32年と現在の河道断面比較図（眼鏡橋付近）

河道改修

市街地においては、昭和32年当時に比べて川幅で約1.5倍、安全に流せる水の量は約2倍となりました。現在の川は昭和32年7月の洪水がきたとすると、昭和32年当時に比べて氾濫がだいぶ小さくなります。



半造川左岸引堤完成状況

高潮に対する防災効果

潮受堤防締切後は、調整池水位が標高マインナスイダに管理されていることから、有明海の潮位に左右されず河川の流水を調整池に流すことができます。また、台風時に大きな被害が発生する高潮も潮受堤防により防ぐことができます。調整池に貯まった水は、外潮位が調整池水位より低くなったときに自然排水します。



諫早湾干拓事業

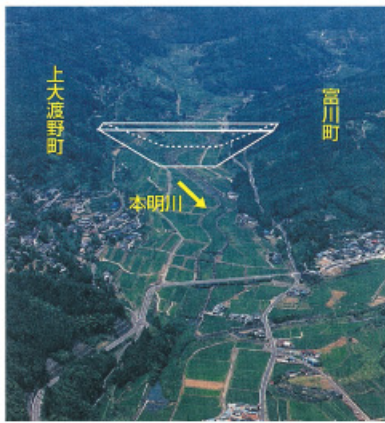
昭和三十二年七月二十五日
諫早大水害から五十年

本明川ダム建設事業

洪水被害から人命と財産を守るために国土交通省の直轄事業として、本明川上流（諫早市富川町地先）にダム建設が計画されています。

本明川ダムの目的

- ①洪水調節
ダム地点においての洪水調整を行い、諫早市を洪水から守ります。
- ②望ましい河川流量の確保
渇水時の良好な河川環境の保持と、ダムより下流の既得農業用水が安定的に取水できるよう、本明川の流量を確保します。
- ③水道用水の確保
長崎県南部においては、今後水道用水の不足が心配されています。本明川ダムは、水道用水として新たに日量25,000立方メートルの水を安定供給します。



未来を目指します

市総合防災訓練

諫早市では、大雨や地震などの各種災害から市民の生命や財産を守るため、関係機関による防災活動の的確な対応や防災意識の向上などを目的とした諫早市総合防災訓練を行っています。



主な訓練内容

- 水害想定訓練
住民による避難訓練
ポンプ車による排水訓練
中州からの救出訓練
- 地震想定訓練
医療救護訓練
倒壊家屋からの救出訓練
油消火、スプレー缶爆発実験
- 市民参加型訓練
心肺蘇生法
煙中体験
応急手当法



大丈夫？ まさかのとき、



水害に備えて

本明川の整備には、まだまだ長い年月が必要です。このため、国土交通省と市では洪水から人命に関わる被害を最小限に抑えるため、避難に役立つ情報の提供など、色々な取り組みを行っています。



諫早ケーブルテレビへの情報提供
大雨の時には、諫早ケーブルテレビで本明川の状況が確認できます。
▶諫早ケーブルテレビ（3チャンネル）



エフエム諫早の情報提供
停電したときや外出先でも役立つのが地元のラジオ局。市では、大雨などの時エフエム諫早と防災無線で気象情報や災害情報をお知らせします。
▶FMラジオ（周波数77.1MHz）



河川情報表示板
雨や水位の情報をリアルタイムで表示する情報板【JR諫早駅前】



裏山橋の水位表示
川がどんな状態なのかを表示。避難判断水位は、避難勧告等の目安とする水位です。

